

「総合的な学習の時間」における国際理解教育の授業実践

単元「在日韓国朝鮮人をはじめとする在日外国人理解を深め、違いを認めあい共に暮らそう」

方政雄（兵庫県立湊川高等学校）

はじめに

現在、在日外国人の数は約 192 万人（2003 年 12 月末時点）であり、日本の人口に占める割合は 1.50%、約 67 人に 1 人が外国人である。今、学校現場では外国人児童生徒が様々な課題を持ちながら学んでいる。その在籍数は増えてはいるが、異質なものを排除しがちな日本社会にあって、外国人に対して歴史的な経緯や社会的な背景などにより生み出された偏見や差別が存在し、その子どもとそれを取りまく環境が明確な教育課題の対象として認知されていない現状が多く見られる。在日韓国朝鮮人をはじめとする在日外国人と共生していくための教育方法を「総合的な学習の時間」における国際理解教育の中に求め、それに関するカリキュラム開発と単元構想、実践授業及びその分析、評価を行った。

I. 単元構想及び実践授業について

単元構想に先立ち、授業対象生徒の実態を知るために、兵庫県立高校 1 年生（計 261 名）に隣国や在日外国人に関するアンケート調査¹⁾（全 27 問）を行い、その結果をもとに意識状態や知識度また興味・関心を考慮に入れながら単元を構想した。

1、単元「韓国朝鮮及び在日韓国朝鮮人をはじめとする在日外国人理解を深め、違いを認めあい共に暮らそう」の単元計画(16 時間)について

(1) 単元構成

在日外国人と共に暮らすための課題とその解決方法を、歴史的にも文化的にも、日本との関係が深く、また、在日外国人の 3 割以上を占めている在日韓国朝鮮人との共生関係を築くことに焦点化をはかることで探りたい。その道筋は、他の在日外国人との共生関係を築く試金石であり、また担保でもあると考える。

Ⅰ在日外国人について：在日外国人について知ろう（1、2 時間目） Ⅱ韓国朝鮮について：隣国の韓国朝鮮理解を深めよう（3～10 時間目） Ⅲ在日韓国朝鮮人について：在日韓国朝鮮人の歴史と生活を知ろう（11～14 時間目） Ⅳ共生するための実践的課題：在日韓国朝鮮人をはじめとする在日外国人と共に暮らすための課題と解決方法を考えよう（15、16 時間目）。これらの内容を時間配分し、単元指導計画として表²⁾にまとめた。

(2)単元のねらい

①歴史的、文化的にも関係の深い隣国・韓国朝鮮の理解を深め、友好的に共存してくための知識と態度を養う。②最大定住外国人である在日韓国朝鮮人を含む在日外国人の歴史と現状を知り理解を深めることで、在日韓国朝鮮人をはじめとする在日外国人と共に生きていくための資質や能力の育成を図る。③異文化を理解し相対化することで、自己の文化や自己を客観的に捉え、自らのアイデンティティの確立をはかり、自己のあり方や生き方を考える。④多文化共生社会において、異文化を持つ人たちと共生するための課題とその対処を考え提案することで、自らの学習の社会的価値や意義を確認し、社会参加を可能とするスキルや態度を養う。⑤自己評価活動（ポートフォリオ）を繰り返すことで、自己の学習成果や課題を意識しながら学習を進め、問題意識の進化や自己評価の習慣などを養う。

上記単元のねらい及び J.A バンクスにおける多文化教育の目標³⁾に基づき本単元の目標を「知識・理解」「スキル」「態度・価値」とし、観点別に次の[表 1]に示した。

(3)単元の目標（観点、評価規準） [表 1 観点別評価項目と評価規準]

観点	評価項目	評 価 規 準
知識・理解	①多文化社会の気づき	在日外国人の現状を知ること、地域社会の多文化的状況に気づく。
	②歴史、生活等理解	在日韓国朝鮮人をはじめとする在日外国人の歴史や生活について理解する。
	③ステレオタイプ、偏見、差別の誤り	在日韓国朝鮮人をはじめとする在日外国人に対するステレオタイプ や偏見、差別の誤りを理解する。
	④権利保障の必要性	多文化社会の現状として、在日外国人の権利が十分に保障されていないことを理解する。
	⑤共感的心情理解	在日外国人など、異文化の中で暮らす人々の心情を共感的 に理解する。
	⑥コミュニケーションの大切さ	在日韓国朝鮮人をはじめとする在日外国人とのコミュニケーションの大切さを理解する。
	⑦共生の大切さ	在日韓国朝鮮人をはじめとする在日外国人と共生することの意味と大切さを理解する。
スキル	⑧論理的思考判断	問題を論理的に考え、判断することができる。
	⑨意思伝達スキル	討議やインタビュー、質疑応答など自分の考えや意見を、相手に理解を得るようにすることができる。
	⑩提案、発表スキル	提案等をまとめ、多数の前で発表できる。
	⑪受容、判断スキル	他者(班)の意見等を肯定的に受け入れ、批評することができる。
	⑫反省的思考スキル	自らの学習態度や学習成果を反省的にふり返る。
態度・価値	⑬異文化理解への興味、関心	異文化の中で暮らすことの意味を共感的に学び、興味関心を示す。
	⑭価値の相対化と多様性の尊重	異文化を理解し相対化することで、違いを認めあい多様性を尊重する。
	⑮外国との友好的交流	韓国朝鮮をはじめ諸外国を歴史的、文化的、社会的に理解し、友好的に共存する。
	⑯社会的不平等の是正	在日韓国朝鮮人をはじめとする在日外国人に対する社会的不平等を是正する。
	⑰課題解決意欲	共生するための課題を考え、それを解決する意欲を持つ。
	⑱学習への積極的参加	学習活動に積極的に参加する。
	⑲自己評価態度	自己評価表（ポートフォリオ）等をもとに自己の進歩や変容を評価できる。

2、実践授業(5 時間)について

上記の単元構成の内、今実践授業を 5 時間としたため単元構成(16 時間)の各ユニットをⅠ→Ⅲ→Ⅳのように精選した。Ⅰ（在日外国人について・1.5 時間）→Ⅲ（在日韓国朝鮮人について・1.5 時間）→Ⅳ（共生するための実践的課題・2 時間）

- ・単元名：「在日韓国朝鮮人をはじめとする在日外国人理解を深め、違いを認めあい共に暮らそう」
- ・実施科目：「総合的な学習（国際理解）」（ただし「現代社会」の時間に実施）
- ・実施校、学年：兵庫県立A高等学校（全日制・第1学年A組40名、B組41、合計81名）
- ・実施期間：2002年5月8日（水）～5月29日（水）、6月26日（水）

（１）学習活動

本実践授業を単元のねらい・目標に沿って、学習形態を画一的な一斉授業だけに限らず多様な教育方法を積極的に取り入れて実践する。また、次のような視点も考慮に入れ、学習活動を展開したい。①外国人児童生徒と共に学ぶことができ、共通理解が図れるもの。②「日本」を客体化、相対化できる授業内容とし、自己を客観的に見て、自己について考える機会となる授業とする。③参加型学習を取り入れる。（シミュレーション（バーンガゲーム）、ディスカッション、バスセッション、ランキング、プレゼンテーションなど）④ゲストスピーカー（在日外国人）とディスカッションをし、身近な問題として課題意識を持つようする。⑤自己評価学習（ポートフォリオ学習）を取り入れる。

（２）授業内容

時間	主な学習内容・活動	指導上の留意点・評価計画
1	<ul style="list-style-type: none"> ・[事前評価] 質問紙調査「在日外国人の権利に関するアンケート」 ○異文化世界を体験させる（異文化接触疑似体験・バーンガゲーム） ・ゲーム内容の意味を考える（魚が水を意識するには） 一文化及び自己への気づき 社会的少数者の思い ・学習目標、内容の説明 ・自己評価学習（ポートフォリオ学習・評価）の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・在日外国人の置かれている立場や心情を共感的に理解し、これからの学習の興味、関心を深める ・ゲームの「ふり返しシート」を書かせ、問題点を整理する ・学習目標、評価観点を理解させる
2	<ul style="list-style-type: none"> ○在日外国人について理解を深める ・在日外国人数推移から見えるもの（在日外国人の歴史と現状） ○在日韓国朝鮮人の生活（生徒アンケート集計を中心として）について ・歴史と生活について（生徒アンケート問19.20.22） ・民族差別はあるのか（生徒アンケート問21を中心として） ・ディスカッション ・次回のゲストスピーカーへの質問事項を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフを示し（外国人登録者数の推移及び現在の在日外国人国籍別人数）生徒自らが問題点に気づくようにしたい ・生徒アンケート結果を配布し、自らの意識を確認する ▲自己評価表から学習状況を確認
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲストスピーカー（在日韓国朝鮮人・金Hさん〔女性40代〕）の話「日本に生まれ育ち、暮らして思っていること」 一隣に住んでいる、韓国朝鮮人からのメッセージ ○ゲストスピーカーとの語らい ・質疑応答及びディスカッション ・[宿題] 知り合い等の外国人に対してのインタビュー（出来なければ、作文「ゲストとの話で学んだこと思ったこと」） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストとは前回の質問事項を中心として、事前に打ち合わせをしておく ・打ち解けた雰囲気での対話ができるようにする ・生徒からのインタビュー ▲自己評価表から学習状況を確認 ・基本な質問項目を指定する
4	<ul style="list-style-type: none"> ○在日韓国朝鮮人と共に暮らすための課題について考える 一共に暮らす道をはばむ二つの壁 ①制度（システム）の壁 <ul style="list-style-type: none"> ・誕生・就学・就職 ・国籍条項 ・社会参加（義務と権利） ②心の壁 <ul style="list-style-type: none"> ・結婚問題 ・「違うもの」の排除と共生 ・ディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を教材のプリントや自己評価表（学習の記録）を見ながら整理する ・共生に対しネガティブな見解も示し、生徒自身に価値葛藤が起こるようにしたい ▲自己評価表から学習状況を確認
5	<ul style="list-style-type: none"> ○在日外国人と共に暮らすための提言（プレゼンテーション） ・班ごとにバスセッションにした課題とその解決方法をランキングし、発表する ・各班の発表に対する質疑応答 ・[事後評価] 質問紙調査「在日外国人の権利に関するアンケート」 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードを模造紙に貼り付け、プレゼンテーションシートを作る ・各班の発表内容、方法等について各自が評価する ▲自己評価表から学習状況を確認
1 月後	課題作文「在日韓国朝鮮人をはじめ在日外国人と共に暮らすための私の提言」	・具体的な内容になるように指導

II. 実践授業分析と評価について

授業分析と評価について次の 3 つの視点から行いたい。1、**授業展開に基づいたカリキュラム評価**：各授業の「目標・ねらい及び展開」を明らかにし、それに基づいて実際の授業展開を評価する。その際、生徒ポートフォリオである自己評価表「学習の記録」⁴⁾、各「ふり返しシート」、「インタビュー記録用紙」、「班発表評価欄」、「課題作文」など生徒の記述文等からの視点も取り入れる。2、**観点別達成状況に基づいた学習評価**：各生徒ポートフォリオ（自己評価表「学習の記録」等）の記述内容を、単元のねらい・目標にもとづいた観点別（①知識・理解②スキル③態度・価値）評価規準に照らし分析し、達成状況を定量的にも評価する。3、**質問紙調査の分析、評価**：授業の事前事後に行った質問紙「在日外国人の権利に関するアンケート（態度測定尺度）」の結果を分析し、その有意差の検定から生徒の意識や態度の変容について評価をする。

1、授業展開に基づいたカリキュラム評価

（1）1 時間目授業の分析と評価

1）**本時の目標・ねらい**：①単元全体のテーマ、目標・ねらいについて理解する。②異文化シミュレーション、バーンガゲーム⁵⁾を行い、異文化交流を擬似的に体験し在日外国人の心情や状況の理解を図り、これからの学習の興味、関心及び、問題意識を深める。③学習方法の特長である、参加型学習、自己評価学習(ポートフォリオ学習)について理解する。

2）本時の展開

時間	学習の展開	生徒の活動	指導・支援
0 5	事前アンケート（態度測定尺度）	「在日外国人の権利に関するアンケート」に答える	・質問紙を 1 項目ずつ読み上げ、用語の説明をしながら答えさせる ・事後も同じようにとり、生徒の学習による変容について分析、評価する
5 15	単元の概要（テーマ、学習方法、評価）説明	プリント「学習の流れについて」を見る	・事前にクラスを 6 班に分けておく（出席簿順の席とする） ・在日韓国朝鮮人をはじめとする定住外国人を理解し、共に暮らしていくための課題とその解決方法を探る学習であることを理解させる ・各時の概要について要点を説明し、参加型の学習であり、生徒の自発的、積極的参加を促す
15 35	バーンガゲームをする	・各班に配布したプリント「ゲームの進め方」及び「ルール」を理解し、予備練習をする ・授業者の指示によりゲームを開始する	・ルールにのっとり、なごやかな中にも厳粛に行なわせたい
35 45	異文化交流の意味を考える	・プリント「魚が水を意識するには」を見てその意味を考え、発言し討議する ・代表生徒の意見を聞き、自らの考えと比較する	・「異文化交流体験」の意味を自ら気づかせ、考えさせるようにする ・これからの学習について興味、関心、及び問題意識を持たせるようにしたい
45 50	まとめとしてゲームの「ふり返しシート」書かす	・ゲームを通して、また話し合いの中から学んだものを、「ふり返しシート」に書く	・自己の内面をまとめて、ありのままに記入するように促す

ゲームの後に「異なる文化的背景の人たちとのコミュニケーションを考えよう」として生徒たちに以下の提案をした。①シミュレーションによって異なる文化的背景の人たちとの接触を体験した時の自分の感情や態度を観察する。②自分がいかにホームテーブルのルール（文化）の影響を受けているかに気づく。③ホームテーブルは他の(多くの)テーブルの中の一つであることに気づく。（自分の文化を外から客観的にながめる）④自分のコミュニケーションのあり方の傾向に気づく。⑤自分は現実社会では、社会的多数派（マジョリティ）なのか、社会的少数派（マイノリティ）なのか。⑥少数派の思いをどう感じたのか。⑦異なるルール（文化）の人達どうしのコミュニケーションのあり方を考える。

3）本時の分析と評価：バーンガゲームにより授業者が意図したように擬似「異文化接触」によって生徒の価値観や態度に混乱が生じ、その事態を客観的に見つめることで、異文化接触の意味を考え始めていた。ゲーム直後、多くの生徒が次のような感想を持った。

（次の生徒は、**B組 25番**を示す。以下同じ）

B25：ゲームを、全部終わった後にすごく恥ずかしくなった。小学校・中学校と何度も「国際理解」や「人権」をテーマにした授業を受けてきて、絶対差別などのバカげたことはしない自信がありました。でも、ゲームの途中で、とてもイライラしたり、また不安になりました。新しく入ってきた子に、何の疑問も感じず、自分たちのグループのルールを押し付けていました。そんな風に私は、在日外国人に対して知らず知らずストレスを与えてしまっているんじゃないだろうか。

以下、「ゲームのふり返しシート」から授業を見てみたい。

○在日外国人への共感的理解：擬似的であるが実際に体験した分、実感がこもっている。そして、このような混乱や不自由さが、異文化に暮らしている在日外国人等、マイノリティの人たちの存在に気づき、共感的理解を示している。

A1：外国人が日本に住んでいると、日常生活で今日やったゲームのようなことが起こる。このバーンガゲームが、今の在日外国人と日本との関係を表しているような気がした。

A27：在日外国人の人がどんな思いで毎日過ごしているかすべては分からないけれど、少し気持ちがわかりました。孤独な思いで生きることはすごくさみしいと思います。

○在日外国人に対する興味、関心や課題意識：少なからず興味、関心やまた問題意識等も感じたようである。

A33：今日起こったことは決してゲームの中だけではとどまらず、現実的に起こっていることである。だからそのことをこれから先、頭の片隅にでも留めておきたい。

B29：今日本にいる人(外国人)も文化の違いにとまどっているかもしれないなと思った。

生徒はこのような感想を持ち、ゲームが意図するねらいはほぼ達成できたようであった。

(2) 2時間目の授業分析と評価

1) 本時の目標・ねらい：①在日外国人の現状を知ること、地域社会が多文化・多民族化しつつある状況を理解する。②外国人が急増している背景や要因、また問題点や課題について理解する。③最大定住外国人である在日韓国朝鮮人の歴史と暮らしを知り、理解を深める。④在日韓国朝鮮人の「民族差別」についてその現実と実態を理解する。

2) 本時の展開

時間	学習の展開	生徒の活動	指導・支援
0 10	・前回のふり返り ・自己評価学習（ポートフォリオ）説明	プリント「学習の流れ」を見る プリント自己評価表「学習の記録」を見る	・自己評価表を配布しその意味と記入方法を説明
10 25	在日外国人理解を図る	プリントのグラフ・表を見る 「全国の外国人登録者数の推移」 「地域別外国人登録者数の推移」 「国籍別外国人登録者数の推移」 「外国人登録者数の都道府県別割合」	・生徒自らが問題点に気づくようにしたい ・次の4点を中心に話を進める ①1980年後半からの外国人増加の要因 ②韓国朝鮮人減少の要因(比率、絶対数) ③上位4ヶ国による独占 ④現在、不況下での外国人の増加の要因
25 35	在日韓国朝鮮人の歴史と暮らしについて	・プリント「在日韓国朝鮮人の生活」(生徒アンケート集計)を見る ・代表生徒の意見を聞き、自らの考えと比較する	・生徒アンケート集計を中心として在日韓国朝鮮人の状況について解説する
35 45	在日韓国朝鮮人の「民族差別」について	・生徒アンケート集計より、プリント「民族差別はあるか、ないか」を見る ・意見交換等、ディスカッションをする	・多くの生徒が「民族差別」はあるというアンケート結果を中心に、その実態と問題点と課題を解説する
45 50	・次回ゲストスピーカーへの質問事項 ・自己評価の記入	・今まで学んだことを通して質問を考える ・自己評価表「学習の記録」を書く	・素朴な疑問等生徒自らが考えるよう促す ・具体的に記入するようにする ・宿題の提示。プリント「在日外国人にインタビューしてみよう」 ・生徒全員に配布するが、可能な生徒のみ提出

授業に先立って行ったアンケートの集計結果を示しながら授業を行った。「学習の流れ」のプリントを配布し、次の点を意識しながら授業に参加するように促した。①この単元学習で何を学ぶか、単元のテーマを捉えること。②各授業の目標・ねらいを意識すること。③そのことの達成度等について、自己評価することをあらかじめ念頭におくこと。④授業形式は参加型の学習であり受動的な態度でなく能動的な態度で授業に積極的に臨み、特に次の態度やスキル（グラフや表を見て考え発言する。ゲストの話を聞き、質疑をする。課題の解決法について考え討議し、その結果をまとめ発表する）を養うことを意識すること。

3) 本時の分析と評価：前時において、在日外国人に対する情意的な共感理解がなされたが、本時は具体的な状況を知ることによって知識理解と課題意識が持てるようにした。

○在日外国人理解について：在日外国人の構成やまた地域が多文化、多民族化している現状について具体的に知った。

B3：年々外国人の数が増加していて、アジア系の外国人が特に多いことが分かった。

B27：在日外国人の中で韓国朝鮮人が関西に多く、また近年フィリピン、ブラジルの人が多いこと。

A37：外国人が地域社会に少なからずいる。多文化社会化している。

○在日韓国朝鮮人理解(「生徒アンケート集計」を中心とした学習から)について：在日

外国人一般に続き、在日韓国朝鮮人の歴史、現状についての授業を行った。在日外国人は毎年増加しているにもかかわらず、「韓国籍、朝鮮籍」者の絶対数は減少しており、その要因の「帰化」問題（日本国籍取得）についても考えていた。

A20：在日韓国・朝鮮人は年々日本の国籍にかえる人が多い。結婚する人も多い。

B7：年々減って帰化していることが多いのが分かった。なんか悲しい。日本人たちが差別の目を無くさない限り在日韓国朝鮮人の人は大変だと思った。私たちの考えを変えていくのが大切と感じた。

B38：差別があるから帰化する人が多く、差別がなければわざわざ日本人になることなんてない。

生徒アンケートの集計から、高校1年生の82%が「なんらかの民族差別がある」⁶⁾としていることから学び、自分の問題として捉えている生徒もいた。

A12：アンケートを見て思ったけど、結婚や就職の時に差別があるんだなと思った。

B8：差別がまだあるんだなと思った。自分が在日の人と会ったときどういう風に接すればいいかを考えることになった。

○学習に対する興味、関心、課題意識および能動的態度について：在日外国人について学び、興味、関心、課題意識を持ちはじめ、授業に対して、能動的態度で臨めた。

B15：在日外国人の人が、住みやすくなるには、私たちがどうすればいいのかなあと思ったし、これから考えていきたいです。

B25：年々増加していく在日外国人が、できるだけ差別や文化の違いによって苦しめないために私たちに何ができるのだろう。

B39：先生の話を目でなく、目でも聞くようにしました。在日外国人を知るために一生懸命会話を聞き、プリントを読んだり見たりできた。

（3）3時間目の授業分析と評価

1）本時の目標・ねらい：①ゲストの在日韓国朝鮮人2世から、日本で暮らす中で日頃思っていることのお話を聞き、在日韓国朝鮮人に対する理解を深める。②ゲストの話とそれに対する質疑応答やディスカッションを通して、共に暮らしてゆくための課題を見つける。

2）本時の展開

時間	学習の展開	生徒の活動	指導・支援
0 5	・前回のふり回り ・本時の内容及び目標、ねらいについて説明 ・ゲストスピーカー 金Hさんの紹介	・宿題等の提出 ・プリント「金Hさんのお話(日本と韓国朝鮮の関係史・金さんと君たちの誕生)」を見る	・宿題等未提出物を提出させる ・「在日韓国朝鮮人の生活」について要点を整理する
5 25	・ゲストスピーカー 金Hさんのお話 「日本に生まれ育ち、暮らしていること」ー隣に在日韓国朝鮮人からのメッセージー	・ゲストスピーカーの話を聞く ・話を聞きながらふり回りシート「話を聞いて学んだこと」の設問事項や気づき等書く	・生徒自身や生徒の保護者の生活史と金さんの生活史を比較、また絡めながら身近に、実感を持って話を聞けるようにする ・話のポイント等をプリントに記入し、課題意識が持てるようにする。

25 45	・ゲストスピーカーとの語らい	・疑問や知りたいこと、意見等を発言し、ディスカッションする	・和やかな雰囲気で行なえるようにしたい ・話の中で大切な部分はキーワードとして板書する ・自発的な発言を原則とするが、活発な話し合いとなるように支援する
～50	・自己評価表の記入	・「学習の記録」を書く	・具体的に記入するようにする

異文化を背景として持つ外国人ゲストとのふれあいは、異文化との接触が直接体験できると同時に、その外国人ゲストの国や文化に対する興味や関心を喚起し、異文化及び人間理解へとつながる意義のある活動である。外国人ゲストの具体的な体験談を聞くことで、個人の人生や生活習慣に貫かれている普遍性を学び、また「日本人」と「外国人」という単純に二元的な枠では捉えられない在日韓国朝鮮人が、同じ社会で日常生活をしていることに気づかせる。そのためゲストとの事前の打ち合わせが不可欠である。今回、主に以下のような内容の打ち合わせを行った。①在日韓国朝鮮人2世としての生い立ち、日本の社会に対する思い②結婚や就職、子どもの誕生等、人生の節目、転換点における在日韓国朝鮮人としての思い③日本高校へ子どもを通わせている親として、高校生のみんなに伝えたいこと。【金Hさん（40代女性）のお話（要旨）】日本生まれ。父は朝鮮籍、母は日本籍。両親の結婚については、母方から勘当同然の反対があった。高校まで民族学校に通った。国籍は、母の日本籍であったが、結婚する時に夫の朝鮮籍にし、そして夫の国籍変更に伴い現在は韓国籍である。夫の就職差別の話。子どもが学校へ本名（民族名）で行っているが、「民族的ないじめ」の心配。子どもの将来の不安。違いを認めあいながら、共に暮らすことの大切さについての話などを中心に話された。

3) 本時の分析と評価：ふり返しシート「話を聞いて学んだこと」の記述から学んだ内容を見てみたい。

①話を聞いて印象に残ったことは何ですか

○本名(民族名)で暮らしていること：在日韓国朝鮮人の本名(民族名)のことや、金さんが本名で暮らしてきたことに対して、驚きや共感、また敬意を表す生徒もいた。

A21: 普段から自分の本名で暮らすことや、自分は在日韓国朝鮮人であることを自覚して生活するなんて、私には考えられませんでした。今まで私は本名で暮らすことを当たり前に思っていたし、在日韓国朝鮮人の金さんは「自分が誰か」ということをよく理解して生活していたのだと思いました。

A39: ずっと本名を使っているのはカッコいいと思った。本名を名乗ることを後ろめたく思っている在日韓国朝鮮人がいるのは、やっぱり日本人が韓国朝鮮人に対して差別があるからなんだと思った。

○国籍変更について：金さんは国籍が2回変わった。日常意識することの無い「国籍」についてあらためて考え、日本人としての自分を相対化する機会となった。

A18: 国籍が日本国籍→朝鮮籍→韓国籍といろいろ変わっても気持ちは変わらない。

B17: 国籍を2回も変えたということを聞いてびっくりしました。国籍のことは余り考えてなかったけど、

とても重要なことなんだと思いました。

○民族差別について：民族差別について、家族の方の被差別体験を話された。

B15:結婚(朝鮮人の父 日本人の母)する時に、勘当されてまでして、すごいと思いました。それだけ差

別があったんだなと思って、すごく悲しかったです。就職の時(夫)とかも大変だったんだなって、改めて思いました。でも、後で認めてもらえて本当に良かったと思った。いっぱい話をして、お互いに認め合えたらもっといいのになあと思いました

B27:昔は国際結婚はかなり大変だった。朝鮮人というだけで差別があり、今でも根強い差別がある。在日外国人の中で本名で名乗っていない人が多い。本当は本名で名乗りたいけど、不安で名乗れない。

○信頼の関係について：日本人との信頼関係を築くことの大切さについて話された。

A8:子どもを日本の学校に行かせて、子どもの友達の親とも仲良くなれる。周りが広がっていく

B39:日本で就職のことや、友人関係などいろいろと不安を抱いて暮らしているということ。違う民族でも、違いを認めあい、尊重しあっているということを聞いて、素敵だなと思いました

②話を聞いて分かったことは何ですか。

上記①の印象に残ったことが、分かったことに繋がっている。大きくは在日韓国朝鮮人に対する民族差別について、その象徴的で本質的な本名(民族名)のことについて、また、それを乗り越え共に暮らすことの意味について生徒たちは学んでいる。

○民族差別があること

B4:朝鮮人の差別がある。就職する時にも差別があった。分かってくれる人も増えてきた。(民族を)隠さざるを得ない状態であることが現実である。

B16:やっぱり、いまだに差別みたいなものがあるんだなと分かりました。私は金さんの話を聞いて差別とかしたくないなあと思いました。

○「本名(民族名)」について

A20:本名では仕事がもらえないことがある。本名では家が借りれないことがある。

A30:金さんの家族は本名を名乗って暮らしてよかったとおっしゃった。それは子どもが友達と仲良くなったり、金さんが子どもの親と仲良くなったりできたから。しかし、今の韓国朝鮮人の人たちは、まだ本名を名乗っている人が少ないそうです。

③在日韓国朝鮮人と共に暮らしていくために、あなたにとってどんな課題がありますか。

○知ること

B13:韓国のことについてたくさんを知っていくことが課題です。

B28:今の私たちは戦争で朝鮮や韓国にしたことをまったく知らないと思った。

○違いを認める

A11:差別をなくして、異国の人たちの違いを認め合うこと。

B32:普通に気にせず暮らせばよいと思う。違いを認め合うのは大切だと思った。

○差別をなくす：民族差別について自分自身のあり方の問題として捉えている。

A30:自分では差別していないつもりでも、心のどこかに「韓国朝鮮人」というのがあって在日韓国朝鮮

人の人に嫌な気持ちを与えてしまうから気をつけて接したい。

B15:本名で暮らせるように。やっぱり差別してないとか言って、心のどこかで差別している意識をなくして、差別をなくしていったらいい。就職や学校で、つらい思いして欲しくないなあ。

④それを解決するためのどんな方法があると思いますか。

○コミュニケーションをはかり、ふれあうことの大切さ

A11:やはり一番は、異国のの人たちとコミュニケーションをたくさんとることでお互い理解できると思う。

A15:心をせまくしないで広く外国人ということで偏見を持たず、普通の友達のように接する

○知り、違いを認めあう

A31:他の国の人と暮らしていくためには、違いを認め合うのが大切。

A27:ただ相手のことをちゃんと考えて理解しようという気持ちを持つことがいちばんだと思います。自分には関係ないとか思わない。

■本時の「学習の記録」の生徒記述からは上記の「振り返りシート」と重複する部分は避け、ゲストによる学習に対する評価や興味、関心、意欲に関する部分を見てみたい。

生徒たちは当事者から直接話を聞くことの貴重な体験をし、学習内容を深く受け止めた。

A14:自分なりに積極的に参加できたと思う。もう少し金さんの話を聞きたいと思った。話を生で聞けて貴重な体験をしたなと思った。すごく楽しい授業だった。

B6:金さんが話している内容を自分の内容におきかえて、苦しみなどを実感しようとした。金さんの話はとてもおもしろく満足した。

話を聞き在日韓国朝鮮人に対する興味、関心、課題意識を持つことができた。

A21:金さんやその他にも在日韓国朝鮮人の人たちの苦勞したことを聞き、その解決法や、自分自身になにか出来ることはないか、私なりに考えました。

B20:しっかり聞いたので以前よりたくさんを知ることができたし、これからも自分から調べていこうと思いました。質問があったのに恥ずかしくてできなかった。こういう機会もまたあると思うので、その時は自分の考えや思いをしっかり相手に伝えるようにしようと思いました。また課題解決について、どうすべきか考えていた。

このように当事者である外国人ゲストから直接話を聞くことは、生徒にとって興味、関心また課題解決の意欲を喚起し、以後の学習活動に積極的に参加する機会となった。

(4) 4時間目の授業分析と評価

1) 本時の目標・ねらい：①前回のゲストの話から見いだした問題点や課題について、その背景や要因、現状について理解を深める。②特に在日韓国朝鮮人に対する「民族差別」

の現状を知り、それを解消するための課題についての知識と態度を養う。③在日韓国朝鮮人への偏見や差別が自分自身にもないか、自己を省みながら、能動的な姿勢で課題について考える。④これらのことをふまえ、在日韓国朝鮮人と共に暮らしていくための課題と解決の方途を探る。

2) 本時の展開

時間	学習の展開	生徒の活動	指導・支援
0 10	・ 前回のふり返り ・ 本時の内容及び目標、ねらいについて説明	・ プリント「あなたの隣にいる A さんの思い」を見る	・ 前回の振りかえシートや宿題「在日外国人にインタビューしてみよう」から共生するための課題について特徴的なものを紹介する ・ 身近な自身の問題として「在日韓国朝鮮人」を捉えるようにする
10 20	・ 生徒アンケート集計を元に「在日韓国朝鮮人の民族差別」に関する理解を深める	・ 生徒アンケート集計のプリント「在日韓国朝鮮人に対する民族差別はあるか、ないか（記述部分）」を見る ・ 代表生徒の意見を聞き、自らの考えと比較する	・ 生徒アンケート集計を元に、生徒が思っている民族差別の有無（進学、結婚、就職、住宅入居）について考察をする
20 30	・ 「民族差別」の現状（進学、結婚、就職、住宅入居）について理解する	・ プリント「入園入学進学の時」「朝鮮人は雇わない」「二つの自殺未遂」「アパートを借りるのも大変」を見る ・ 代表生徒の意見を聞き、自らの考えと比較する	・ 改善されつつある現状もふまえ、具体的な事例を元に、前回のゲストの話と絡み合わせて、身近な問題として考えるようにしたい
30 40	・ 学習内容についてディスカッションをする	・ 疑問や意見等を発言し、ディスカッションする	・ 「民族差別」に対してネガティブな見解を示し、生徒自身の価値葛藤が起こるようにしたい ・ 現状理解の深まりと、それを解消するための課題が出せるようにしたい ・ 自発的な発言を原則とするが、活発な話し合いとなるように支援する
40 50	・ 自己評価表の記入	・ 自己評価表「学習の記録」を書く ・ 宿題の用紙を持ち帰る	・ 具体的に記入するようにする 宿題の提示 ・ 次回に向けて、在日韓国朝鮮人をはじめ在日外国人と共に暮らすための課題を3つ考える

在日韓国朝鮮人は、戦前の日本の植民地統治が起因して生じた外国人である。「均一化」された日本社会が持っている、異民族や異文化に対する無知や排除により、これまで「在日韓国朝鮮人」は偏見や差別の対象として扱われてきた経緯があった。その現実を生徒の内面に問い、ふり返ることで、生徒自身の中に「在日韓国朝鮮人」と共に暮らすことの意味を考えさせ、「内なる国際化」を築くことの意義を見いだせればと思っている。それはまた、すべての在日外国人に共通する課題でもあると考える。

3) 本時の分析と評価：「学習の記録」からの生徒記述から探してみたい。

○在日の状況についての理解：現状を学び、在日外国人や在日韓国朝鮮人に対する共感的理解を深め、結婚、就職等の差別について身近な問題として自己と関連づけて捉えていた。

A21: 在日韓国朝鮮人の人たちがどんな時に苦しみを感じているかなど、プリントを読んだりして考えてみた。私なりに、在日韓国朝鮮人の人たちが差別や偏見を受けずにすむように、日本人は同じ人間として違いを認めるように努力すべきだと思います。

A27: 私は同じ人間として差別はなくすべきだと思います。特に家を借りる時の偏見は早くなくすべきです。今まで結婚に対する差別があるなんて知りませんでした。今日の資料を見て、自分が差別

しているつもりじゃなくても、していることもあると思いました。

○ともに暮らすための課題について：現状を理解し、共に暮らしていくための意見や課題について生徒たちは、違いを認めあうことや社会制度の見直しや権利の保証、また自分自身のあり方などについて学んだ。

A38:制度(システム)の壁がすごく残っているということ。言葉の壁をなくすためには違いを認めたり、違いのすばらしさを知ることが大切だと思う。

B28:今の私たちは差別する理由なんてないのに、実際は差別があるのだから、私たちの中に問題があるのだと思う。そこを何とかしていかないといけない。

○課題解決への興味、関心、意欲：自ら考えて、自分の意見を持つことができ、課題解決の意欲を示している。

A37: 集中して話を聞き在日韓国朝鮮人との暮らし方を考え、自分からでも差別をなくそうと思った。

B28:私たちが今の日本を、世界を変えて、差別のない世界を作っていきたいと思った。

B29:グラフでどこからどんなふうには差別を受けているのだろうと、見取るようにした。自分の意見を持てた。この授業を通して改めて差別をなくそうと思った。

(5) 5時間目の授業分析と評価

1) 本時の目標・ねらい：①今までの学習で学んだ知識をもとに班で協力し、在日韓国朝鮮人をはじめ在日外国人と共に暮らすための課題や解決方法を検討しまとめ、効果的なプレゼンテーション(発表、提案)を行なう。②他の班のプレゼンテーションを聞いて、提案された課題や解決方法等に対し自分の考えや意見を持ち、発表することができる。③他の班のプレゼンテーションを聞くことで、自分の班やまた自身では気がつかなかった視点や問題の存在に気づき、自らの視点や考えを広めたり、また改めたりすることができる。

④バズセッション、ランキング等創造性を開発する新しい学習形態の手法を学ぶ。

2) 本時の展開

時間	学習の展開	生徒の活動	指導・支援
0 5	・前回までの各時のふり り 返り ・本時の内容及び目 標、ねらいについて 説明		・各時内容のポイントをまとめ伝える
5 20	・班学習	・班ごとに討議を深め、課題を絞り、それ に対する解決方法を探る ・課題や解決方法等をカード(ポストイ ット)に書き込み、「はしご型ランキング」 を行い、それを模造紙(プレゼンテー ション・シート)に5位まで貼る	・バズセッション、ランキング方法を説明 ・あらかじめ宿題として出していた「共に暮 らすための課題」を手がかりに討議を深め る ・各班を回り討議や進行状況を見て、必要に 応じて適宜、アドバイスや指導をする ・課題や解決方法は具体的内容としたい

20 40	・プレゼンテーション（発表） ・質疑応答	・各班の発表者は黒板にランキングされた模造紙（プレゼンテーション・シート）を貼る ・各班(1～6班)ごとに発表していく ・各班発表に対して質問及び意見を述べ、それに対して応答する ・発表者以外は発表を聞き、各班の評価をする（「学習の記録」の班評価欄に記入）	・発表時間を決める等、発表がスムーズに行なえるよう全体の進行をこころがける
40— 45	・事後アンケート（態度測定尺度）	「在日外国人の権利に関するアンケート」に答える	・状況に応じて、質問紙を1項目ずつ読み上げて答えさせる
45 50	・自己評価表の記入（時間がなければ宿題）	・自己評価表「学習の記録」を書く	・具体的に記入するようにする

前回、宿題として出した「在日韓国朝鮮人をはじめ在日外国人と共に暮らすための3つの課題」を手がかりに班単位でバスセッションを始める。その討議の中から課題を5つ抽出して、重要と思われるものから「はしご型ランキング」をおこない、その解決方法を含め模造紙にポストイットを貼り、それを各班ごとに発表させた。各班の発表についての評価（1番印象に残った班と、その理由）を「学習の記録」に記入させた。

3）本時の分析と評価：「学習の記録」からの生徒記述から探してみたい。

○共通の意見や思いを持ち、たくさんの課題が分かった：共に暮らすための課題がたくさんあることや、共通の解決方法を知った。

A21:それぞれ在日韓国朝鮮人と共に暮らすために何をなすべきか考えてきたけど、班員はいくつかに意見がまとまって、「考えていることはみな同じなんだ」と思った。
B17:どの班もいろいろな課題や解決方法を考えていて、すごいなと思いました。その課題を解決することで国際解が深まればいいなと思います。

そして、課題について次のようなものをあげている。

①偏見や差別の気持ちを持たないようにすること。

A9:A 組みの人たちはみんな差別に対しての考えをもっている。一人一人が今日のことを覚えていれば、差別はなくなると感じた。
A28:みんながわかりあおうとしている。やっぱり差別はおかしいと改めて分かった。どこの班の人でも在日を受けいれようとしているのに、まだ日本に差別が残っているのは何でかなと思った。

②知り、理解しあうこと。

B16:在日韓国朝鮮人や在日外国人ともに暮らすために必要なのは、お互いを理解することが一番大切なんじゃないかなって思った。
B31:在日韓国朝鮮人の人たちの交流を深めるためには、しなければいけないことがたくさんあるなあと考えた。例えば話し掛けたり、文化をわかりあう。そうすれば交流を深めることができると思う。

③違いを認め、ふれあうこと。

A18:違いを認めるなどたくさん課題があると思った。
A14:在日外国人がどうだこうじゃなくて同じ人間として、1人の人として接することが大切だと思った。

○実行し、行動すること：課題解決に行動することの大切さを多くの生徒が考えている。

B15: 今日やったことを本当に実現させるために、一人ひとりが頑張っていき、すべての人が努力をしないと解決できないと思いました。今日のことがいつか本当に実現できたらいいなあって思いました。

B20: (いろいろな解決方法) ただ行動に移せていないだけだと思いました。ちゃんとかんがえはあるのだから、心の中で思うだけではなくてしっかり行動にうつせていきたいと思います。

(6) 事後の「課題作文」について：全授業終了1ヵ月後に学習内容の保持状態や意識の変容等にどのような変化があるかを見るために、課題作文「在日韓国朝鮮人をはじめ在日外国人と共に暮らすための私の提言」を書かせた。

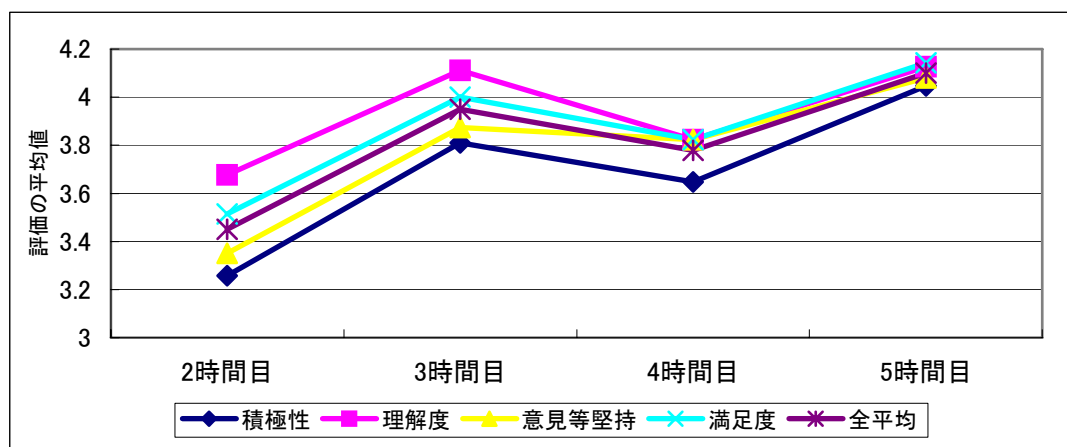
A28: 私は今まで在日の人々がどんな気持ちで暮らしていたか考えたこともなかった。でも、この勉強をして、今まで日本人だと思っていた子が在日韓国人だと知った。・・心の中には誰にも言えない悩みがあったのかもしれない。前の私なら・・深く相談にのってあげられなかったと思う。だが、今の私は違う、在日の人々の日本でのあつかわれ方、悩みの重さはわかっているから。周りに在日の人がいても、差別することなく同等に付き合っていけると思う。もっと外国人との触れ合う機会を作り、国際化を広げたらいいと思う。・・私たちが未来をかえて、差別がまったくない社会をつくっていきたいと思った。

B39: 私には、在日外国人の人々が抱えている悩みや気持ちをすべて理解することはできないけれど、授業を通して在日外国人の問題について考えられるようになった。・・国籍は外国でも、日本で私たちと同じように生活してきたのに、差別や偏見を持たれるなんて、とても辛いことだろうと思った。だから共に暮らすうえで私が最も重要だと思うのは、在日外国人に対する差別や偏見をなくすることだ。お互いの違いを認め合い、尊重していかなければいけないと思う。最後の発表の時間では、みんなの具体的な意見が聞けて、とても良い授業だと思う。自分一人で考えた時よりも考えが深まり、とてもおもしろかった。今回の授業で学んだことや、自分の考えを忘れないようにし、在日外国人に対する差別や偏見を一日でも早く無くせるようにしていきたいと思う。

作文には自己の内面をふり返り、ともに暮らすための課題を解決するために努力したい等の記述が多く見られた。

(7) 学習の自己評価によるカリキュラム分析と評価

2時間目以降、毎時間「学習の記録」の中で「学習の自己評価」⁷⁾を書かせた。各自己評



価項目について授業ごとにどのように変化したのかを次の図と[表 2]に示した。

〔表 2 学 習 の 自 己 評 価 (平 均 点)〕

	積 極 性	理 解 度	意 見 等 堅 持	満 足 度	平 均
2 時 間 目	3 . 2 6	3 . 6 8	3 . 3 5	3 . 5 1	3 . 4 5
3 時 間 目	3 . 8 1	4 . 1 1	3 . 8 7	4 . 0 0	3 . 9 5
4 時 間 目	3 . 6 5	3 . 8 2	3 . 8 2	3 . 8 2	3 . 7 8
5 時 間 目	4 . 0 5	4 . 1 3	4 . 0 8	4 . 1 4	4 . 1 0
平 均	3 . 6 9	3 . 9 3	3 . 7 8	3 . 8 7	3 . 8 2

単元全体を見たとき、3 時間目「ゲストによる話とディスカッション」、そして 5 時間目「共に暮らすための課題とその解決方法についての提言」の生徒「自己評価」の平均点（5 点満点）がそれぞれ 3.95 点、4.10 点と高い得点を示した。3 時間目においては、ゲストから生い立ちや生活体験等、普段余り聞くことが出来ない話を直接聞くことにより学習内容の「理解度」が 4.11 点、また「満足度」も 4.00 点を示している。5 時間目については、これまでの授業の締めくくりの位置づけであり、生徒自らの自主的な活動が要求される授業でもあった。結果的には、学習に対する「積極性」がどの時間よりも高く 4.05 点を示し、生徒自らがバスセッションやランキング、プレゼンテーションを行うことで自分の意見を持つ、「意見等堅持」が 4.08 点と高いレベルを示し、共に暮らすための建設的で具体的な意見も多く見られた。自ら考え話し合うことで学習内容の「理解度」4.13 点、「満足度」4.14 点と全授業を通しての最高得点に結びついていた。終業のチャイムが鳴り授業が終わった後も、片付けをしながら継続して論議が続いている班も見られ、授業をやり終えたことの充実感が見てとれた。2 時間目、4 時間目の活動は結果としては、一方向的な「知識注入型」の授業形式であったのではないかと、生徒「自己評価」の得点から伺える。2 時間目については、知識、理解を深めることを中心に置き授業を展開した。「理解度」は 3.68 点とやや高いものの、「積極性」3.26 点、「意見等堅持」3.35 点、「満足度」3.51 点と他の時間に比べて低い。また 4 時間目は、「共に暮らすための課題」を見つけるため問題点を整理し理解することが中心であった。結果としては 2 時間目と同じような形式となっていたと生徒は捉えていた。3 時間目、5 時間目と比べて全体的に得点は低くなっている。

本単元による実践授業の生徒「自己評価」から導き出されるのは、まず、①単元内容について体験を通じた興味、関心及び、課題意識を持たせる。そして、②その課題を考える元になる基礎、基本的な知識や理解をはかる。そのような準備の上に、③生徒の自主的な学習活動を保障する。このようなときに学習成果が生徒の充実感を伴い得ることができる。

2、観点別達成状況に基づいた学習評価

（1）評価規準を達成する具体的記述（達成規準）

上記〔表 1 (P. 2)〕観点別評価項目及び評価規準に該当する生徒ポートフォリオ（自己評価表「学習の記録」等）の記述内容を検討し、評価規準を満足する具体的記述例を抽出して、それを達成規準⁸⁾とした。

（２）観点別達成規準に基づいた学習評価

観点別達成規準に照らし合わせ、生徒ポートフォリオの記述から達成状況を判定する。達成状況（「達成」含む「ほぼ達成」以上）が授業出席生徒の何％を占めているかを算出したのが次の〔表 3〕である。〔表 3 観点別達成状況％（「ほぼ達成」以上）〕（20%以上、50%以上）

観 点	評 価 項 目	1時 間 目	2時 間 目	3時 間 目		4時 間 目		5時 間 目	事 後
		ふり返しシート	学習の記録	ゲストの話	学習の記録	学習の記録	共生の3課題	学習の記録	課題作文
知 識 ・ 理 解	① 多文化社会の気づき	0	64.4	0	1.5	0	2.4	0	10.3
	② 歴史、生活等の理解	0	28.8	25.4	16.4	7.7	7.1	4.8	31.0
	③ ステレオタイプ、偏見、差別の誤り	0	28.8	53.7	31.3	53.8	66.7	15.9	69.0
	④ 権利保障の必要性	0	2.7	0	0	5.8	4.8	0	6.9
	⑤ 共感的な心情理解	72.6	17.8	10.4	17.9	23.1	14.3	4.8	63.8
	⑥ コミュニケーションの大切さ	29.0	0	11.9	3.0	1.9	16.7	3.2	22.4
	⑦ 共生の大切さ	0	11.0	41.8	10.4	19.2	35.7	7.9	27.6
ス キ ル	⑧ 理論的思考判断	0	0	3.0	7.5	0	0	3.2	25.9
	⑨ 意思伝達スキル	0	0	0	0	0	2.4	42.9	5.2
	⑩ 提案、発表スキル	0	0	0	0	0	2.4	31.7	0
	⑪ 受容、判断スキル	0	0	0	0	0	0	17.5	3.4
	⑫ 反省的思考スキル	1.6	8.2	0	4.5	0	0	0	8.6
態 度 ・ 価 値	⑬ 異文化理解への興味、関心	0	13.7	3.0	3.0	1.9	0	1.6	32.8
	⑭ 価値の相対化と多様性の尊重	0	0	28.4	7.5	5.8	47.6	7.9	17.2
	⑮ 外国との友好的交流	0	1.4	6.0	3.0	1.9	31.0	4.8	12.1
	⑯ 社会的不平等の是正	0	13.7	6.0	6.0	13.5	14.3	1.6	20.7
	⑰ 課題解決意欲	0	0	0	4.5	9.6	4.8	36.5	70.7
	⑱ 学習への積極的参加	0	13.7	0	61.2	42.3	0	58.7	6.9
	⑲ 自己評価態度	0	17.8	0	16.4	7.7	0	9.5	12.1

1) 「知識・理解」観点における達成状況：1 時間目は、ゲームを通して在日外国人の情意的理解をはかり、これからの単元学習に対する動機づけをはかることを目的とした。「⑤ 共感的な心情理解」は 72.6% の高い達成率となっていた。これは、単元終了まで平均 30% の達成率を保ち、在日外国人に対する共感的理解が図られ、それを保持しながら授業を受けていたものと思われる。「③ ステレオタイプ、偏見、差別の誤り」はいずれの時間も高い達成率を示している。（2 時間目 28.8%、3 時間目 53.7%・31.3%、4 時間目 53.8%・66.7%、5 時間目 15.9%、平均 41.7%）これは、特に 3 時間目のゲストスピーカーである在日韓国朝鮮人から民族的な被差別の話等を直接聞くことで、「③ ステレオタイプ、偏見、差別の誤り」（53.7%）の理解が深まった。そのことで課題意識を持ち続け、高い達成率に繋がったのではないかと考えられる。それはまた、在日韓国朝鮮人の歴史性や日常の生活の話をも具体的に知ることにより、「② 歴史、生活等の理解」（25.4%）もはかられた。また、上記②③が理解されることにより、「⑦ 共生することの大切さ」（41.8%）に繋がっていったのではないかと考えられる。

2) 「スキル」観点における達成状況：5 時間目は班別活動が中心で、班で課題と解決方

法を討議し、それをまとめてクラス全体に提案、発表するという、具体的な課題を班ごとに課した。そのため、それを遂行するうえで必要になったスキル、「⑨意思伝達スキル」(42.9%)、「⑩提案、発表スキル」(31.7%)、「⑪受容、判断スキル」(17.5%)の達成率が高くなったものと思われる。受身で消極的な生徒も、具体的な課題を班や個人に与え、それを行なう中でスキルが身についたと考えられる。

3)「態度・価値」観点における達成状況：単元の後半部分に多くの達成を示している。3時間目以降において「⑮学習への積極的参加」の達成率が高い(3時間目 61.2%、4時間目 42.3%、5時間目 58.7%)。特に最終授業である5時間目に、「態度・価値」観点のいわば総合的な評価といえる「⑰課題解決意欲」において36.5%の達成率を示している。

4)授業における観点別評価のまとめ：観点別学習成果の全体の傾向として、前半で在日外国人に対する情意的な共感的理解と、課題意識を持ち、「知識・理解」を深めていた。後半はそれに基づいて課題の明確化とその解決方法を探ることで、「態度・価値」を決定し、深めることに繋げていた。また集団討議からその課題と解決方法を探り、提言することで自身における論理的思考判断や相手に対する意思伝達等の「スキル」を学び高めていた。

5)事後(1ヵ月後)の「課題作文」から見た評価観点別達成状況：「知識・理解」観点においては「③ステレオタイプ、偏見、差別の誤り」が授業時のピークより+15.3%高い69.0%、また「⑤共感的的心情理解」はピーク時より-8.8%低い63.8%であるが、いずれも高い達成率の水準を維持していた。「スキル」観点について見れば、授業時ほとんど無かった「⑧論理的思考判断」が25.9%と高い値を示している。それは学習のまとめとして、これまでの学習内容を振り返り、整理し再構築しながら論理的な思考で文章として組み立てていったことと関連していると考えられる。「態度・価値」観点における達成状況で特記すべきことは、「⑰課題解決意欲」が70.7%と高い値を示していることである。この評価項目は本単元学習の大きな目標・ねらいでもあった。特に「総合的な学習」においては知識の理解中心的な教育活動だけでなく、実践的な態度の育成や課題解決の意欲や行動が大切とされている。「課題作文」の中の記述には、共に暮らすために身近なことから具体的に行動しよう等、実践的な行動内容について触れ、決意を述べる者も少なくなかった。

3、質問紙「在日外国人の権利に関するアンケート(態度測定尺度)」の分析、評価

授業を通して「在日外国人の権利」についての態度がどのように変容したかを質問紙⁹⁾の結果から見てみたい。

(1)態度得点から見る「態度」の変容

質問紙の事前と事後の得点の平均値とその差を算出し次の[表4]に示した。

[表4 事前事後各設問得点の平均値と差]

	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18	問19	問20	平均値合計	平均値
事前得点平均	3.42	3.31	3.29	4.03	3.97	3.96	4.22	4.03	3.67	2.68	4	4.29	4.38	4.4	4.47	4.42	4.15	2.92	3.13	2.74	75.5	3.77
事後得点平均	3.74	3.61	3.53	4.38	4.38	4.31	4.38	4.25	3.82	3.03	4.24	4.33	4.39	4.39	4.51	4.5	4.44	2.97	3.4	2.56	79.1	3.96
事前事後差	0.32	0.31	0.24	0.35	0.4	0.35	0.15	0.22	0.15	0.35	0.24	0.04	0.01	-0	0.04	0.08	0.29	0.06	0.28	-0.2	3.68	0.18

事前と事後の得点で差が比較的大きく出たのは、問4（市会議員）、5（市長）、6（国会議員）の「選挙権（投票権）」の部分であった。問1（市会議員）、2（市長）、3（国会議員）の「被選挙権」に関しても事後の得点は伸びてはいたが、元の得点自体が低い値である。問10の「外国人の大臣」設問も得点の絶対数は低いが、事後の得点の伸び率は比較的高くあらわれている。問12～16までは国民健康保健加入や児童扶養手当支給、労働災害補償など福祉関係の設問でいわば生活権に密着した事項であるが、事前と事後の差はほとんどなく元の得点自体も高い。これは外国人という「国籍」の枠を超えて、生活者としての共感が直接感じられる部分である。

（2）態度得点の変化の有意性について

質問紙得点の平均値の差は、事前（75.5）と事後（79.1）では事後の方が3.6得点高かった（この平均値の差についてt検定を行い、有意差ありと判定された）。よって、本単元の授業から在日外国人の人権に関する、よりポジティブな態度が養われたといえよう。

おわりに

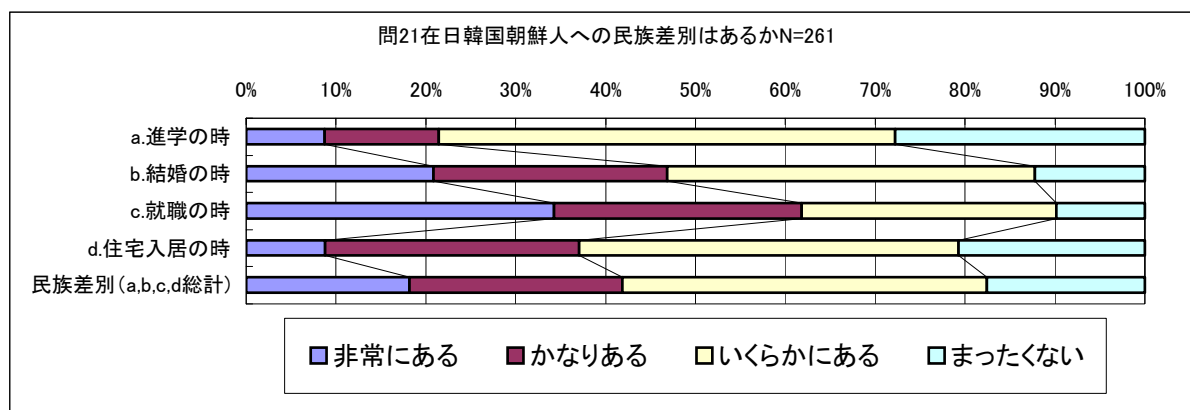
国際理解教育が、相互理解・相互交流を基本に異文化との協調・共生の態度を基本理念、目標にするならば、それに沿った教育内容や活動・指導の在り方が問われることになる。

異文化をもつ人々と共に生きていく態度の形成を図るためには、実践的な態度や資質、能力の育成をめざした体験的な学習や課題学習が指導の中に取り入れられる必要がある。このように国際理解教育は、その目的・性格・内容からしても特定の教科・領域に限定されず「総合的な学習」として取り組まれる教育活動に適しているといえよう。

「授業」の起承転結を考えると、授業構想や計画、また実践も大切な営みではあるが、生徒たちが授業者の意図をどれほど自己のものにすることが出来たのか、なしえた「授業」の分析そして評価を終えて「結」となすを考える。特に国際理解教育は、自己の内面を問い意識の変革を迫る教育活動でもあるため、その作業はいつそう大切な営みでもある。

<注>

- 1)授業実践校のA高校（神戸市・112名）、B高校（西宮市・149名）において2002年2月に実施した。
- 2)資料1 単元「韓国朝鮮及び在日韓国朝鮮人をはじめとする在日外国人理解を深め、違いを認めあい共に暮らそう」（16時間）指導計画（別紙）。
- 3)ジェームズ・A・バンクス 平沢安政訳『入門・多文化教育—新しい時代の学校づくり—』明石書店，1999年，4頁。
- 4)資料2 「学習の記録」用紙（別紙）。
- 5)アメリカなどで異文化コミュニケーションの分野で広く使われている疑似体験ゲーム。多文化社会体験や異文化理解、その中でコミュニケーションのあり方を考えるために使われる。
- 6)生徒アンケート問21「在日韓国朝鮮人への民族差別はあるか」集計結果。



- 7)学習の自己評価について、次の4つの項目①積極性（学習に積極的に取り組めたか）、②理解度（学習内容が理解できたか）、③意見等堅持（自分の意見・考えを持てたか）、④満足度（学習に満足できたか）について、「とてもそう思う」を5点、「ややそう思う」を4点、「どちらでもない」を3点、「あまりそう思わない」を2点、「まったくそう思わない」を1点として測定した。
- 8)資料3 達成規準(評価規準を達成する具体的記述)（別紙）。
- 9)質問紙調査は授業の1時間目の初め（事前）と、最終の5時間目の最後（事後）に行った。質問は全20問で、各質問の態度得点は、「非常に賛成」を5点、「賛成」を4点、「どちらでもない」を3点、「反対」を2点、「非常に反対」を1点として測定した。